

こんにちは熊日ですin上天草で 基調講演をしました

逸見教授は、2009年2月14日に上天草市松島総合センター「アロマ」で行われた『地域とともに、こんにちは熊日です in 上天草』で基調講演を行いました。

当日は約500人の参加者を前に、「海は宝 足元の恵みを守ろう」と題して、有明海と八代海に面する上天草市の海域環境に触れ、「湾奥部にある八代海側の方が富栄養化しやすく、環境悪化が進みやすい」と指摘しました。また、砂干潟に生息するハクセンシオマネキなど特徴的な生物を紹介し、「海は自分たちのものという意識を持つことが環境保全には大事」と訴えました。



盛況だった 第10回「干潟フェスタ」

平成21年5月23日(土)に熊本新港親水緑地公園で、今年も海を大切にし、守り続けていく心を育てることを目的に第10回「干潟フェスタ」を開催しました。

干潟体験会場では「探検隊・どろんこ隊・すなモグリ隊」や「むつごろう観察」「パネル展示」コーナーなどに加えオープニングに県警音楽隊や長嶺小学校吹奏楽部の演奏、環境整備船「海輝」の見学など沢山の催しが行われ、また、○×クイズや干潟ビンゴ、アサリ貝の無料配布など、約1,100人ものみんなが楽しみながら自然を学びました。



大学院生対象合同公開臨海実習が 開催されました

2009年より、海洋生物の分類学、系統学、生態学等の研究を行う全国の国立大学の臨海実験所が合同で、国立大学法人、公私立大学の生物学・環境科学関連大学院に在籍する大学院生を対象とした公開臨海実習を開催することになりました。合同で臨海実習を行なう目的は、気候の異なる各地にある臨海実験所で、共通の研究課題に取り組み、結果を比較することで、海洋生物生態のプロセスの一般性や条件依存性の理解を深めることにあります。

初年度である今年は、北海道大学北方生物圏フィールド科学センター水圏ステーション厚岸臨海実験所において、7月19～25日という日程で行なわれました。指導教員は、臨海実験所の仲岡雅裕教授、国立科学博物館の齋藤寛博士、そして沿岸域センターの嶋永准教授でした。実習では以下のような調査・実験が行なわれました。

1. 岩礁潮間帯の種多様性の調査
2. 気球を用いたリモートセンシングによるアマモ場の空間分布の調査
3. 生物多様性の国際的データベースへの生物標本の登録
4. 甲殻類の行動生態学実験

参加者は5名、うち2名が留学生で、実習はすべて英語で行いました。学生は夜遅くまで実習に取り組み、また、留学生との交流を通して、学問への意欲を改めて感じてもらったのではないかと考えます。



気球から撮影した実験所周辺の海面の様子。黒い影に見える箇所がアマモの密生地である(写真:仲岡雅裕教授提供)